

令和7年度 中学生チャレンジテスト(3年生)の結果概要

大阪市教育委員会

○調査目的

- 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

○調査実施日

○実施校数

・令和7年9月2日(火)

○実施生徒数

・130校(468校)

○学力に関する調査

・国語、数学、英語、社会、理科(A・B)

○調査対象

・中学校3年

※実施校数、実施生徒数、平均点、無解答率の()内の数字は大阪府である。

※集計値/グラフは、9月2日に調査実施した生徒を対象として集計した値である。

中学校3年【国語】

平均点
64.8(64.2)点

無解答率
6.1(6.8)%

実施校130校 生徒数15,087人

良好

- 文章の構成や展開、表現について考えること
- 目的や意図に応じて伝えたいことを根拠を明確にして書くこと

課題

- 文脈に合わせて適切に書くこと
- 文章の内容を捉え、筆者の考え方を理解すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★話や文章を考えるときには、聞き手や読み手に伝えたい内容が適切に伝わるように、話や文章の内容を踏まえ、要点や根拠が明らかになっているかを確認しましょう。
- ★文章を読むときには、文章中に示されている具体例と、書き手の主張との関係を考えながら内容を把握し、そのうえで理解したことや考えたことを説明したり、文章にまとめたりしましょう。

中学校3年【数学】

平均点
54.3(53.9)点

無解答率
11.1(12.1)%

実施校130校 生徒数15,132人

良好

- 箱ひげ図から範囲と四分位範囲を読み取ること
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えること

課題

- 「2つの角の関係を文字で表す」「表を読み取り、式で表す」など、文字を用いた式で角の大きさの関係や数量を表すこと
- 2つの三角形が合同であることをすじ道を立てて考え証明すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★対応する辺や角の相等関係から文字を用いて表すことができるようになります。また、図や表から数の並び方を観察し、数の増え方や関係に注目して考えるようにしましょう。
- ★回転移動の性質を生かして、対応する辺や角を正しく見つけられるようにしましょう。また、合同の證明で使う条件を整理しながら、順序立てて論理的に説明する力を伸ばしていきましょう。

中学校3年【英語】

平均点
54.4(53.2)点

無解答率
6.5(7.4)%

実施校130校 生徒数15,121人

良好

- 語や文法事項等を理解して、正しい文を書くこと
- 日常的な話題について、まとまりのある会話文とグラフを読み、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握すること

課題

- 文法や語彙の知識を活用し、場面に応じた英文を書くこと
- 社会的な話題についてのスピーチ原稿を読み、話の概要を捉えて、内容の要点を適切に把握すること

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★場面に応じた英文を書くためには、実際のコミュニケーション場面を想定し、文法や語彙を活用して、日常的な表現を練習するようにしましょう。
- ★社会的な話題の要点を捉えるためには、一文一文の意味など文章の特定の部分にのみとらわれることなく、文章全体を読み、含まれている情報の中から最も重要な情報を判断しましょう。

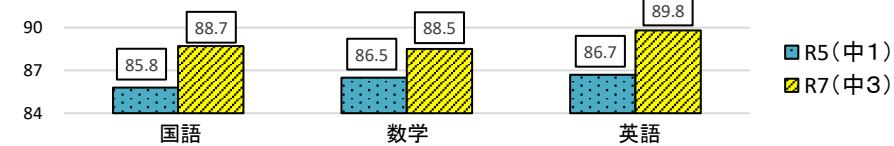
標準化得点を活用した 経年分析

※標準化得点は年度間の相対的な比較ができるよう、大阪府平均を100として統計的に計算したものです。
※令和5年度と令和7年度で、個々の生徒の対応のデータにより分析したものです。

【大阪市全体の経年分析】
□「国語・英語」において、成績が向上していることが統計的に示されています。



【学力に課題の見られる生徒(区分IV)の経年分析】
□「国語・数学・英語」において、成績が向上していることが統計的に示されています。



※大阪府の生徒全員の得点分布の状況から高い順に概ね25%になるように区切り、区分I、区分II、区分III、区分IVの4つに分け分析しました。
なお、得点が同じ場合は上位の区分に含んでいます。

中学校3年【社会】

平均点
51.5(51.2)点

無解答率
5.8(6.5)%

実施校130校 生徒数15,174人

良好

- 地図における縮尺を活用すること(地理)
- 通商条約締結後の貿易とその影響について理解すること(歴史)

課題

- 資料に示された情報をもとに考察し、説明すること(地理)
- 高度経済成長期に起きたできごとの推移を考察すること(歴史)

【これからの学習に向けたアドバイス】

- ★課題の解決に向けて、地図や統計などの複数の資料から必要な情報を読み取り、まとめたことを根拠に基づいて説明できるようにしましょう。
- ★歴史的な事象について、「いつ」や「なぜ」など、時期や年代、推移などに着目して考察し、論理的に説明できるようにしましょう。

中学校3年【理科A】

平均点
48.2(48.1)点

無解答率
8.6(10.0)%

実施校22校 生徒数2,720人

良好

- 電解質とはどういう物質であるかを理解すること
- カエルの発生について、胚の様子から変化の順番を理解すること

課題

- 溶質と溶媒の質量について、溶解度と関連づけて考えること
- それぞれの水溶液の温度を下げることで起こる現象を、溶解度曲線と関連づけて説明すること

中学校3年【理科B】

平均点
46.5(46.0)点

無解答率
9.4(11.0)%

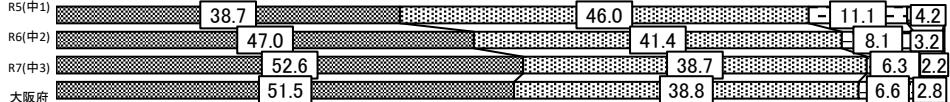
実施校108校 生徒数12,494人

良好

- ★水100gに溶ける物質の質量から溶解度の規則性を見いだし、ある質量の物質を溶かすのに必要な水の量について考えるようになります。
- ★溶解度曲線から読み取った物質の性質をもとに、実験の操作によって起こる現象を、条件をもとに整理しながら、実験の結果について見通しを持って判断し、表現するようになります。

生徒アンケート結果

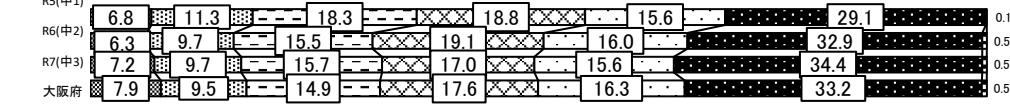
1. 文章や資料などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる。



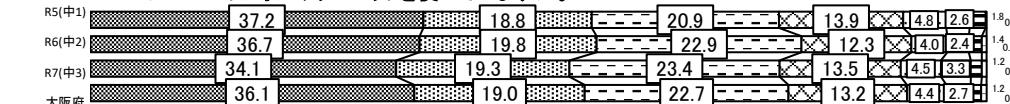
1~3,5~9 ■当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない □その他・無回答
4 ■ほぼ毎日 □週3回以上 □週1回以上 □月1回以上 □月1回より少ない □その他・無回答

■本調査の結果とともに学習に役立つ情報については、大阪府教育庁 市町村教育室
小中学校課のWebページにおいてもお知らせしていますので、ご活用ください。
<https://www.pref.osaka.lg.jp/o180080/shochugakko/challenge/index.html>

10. 普段(月曜日から日曜日)、1日平均どれくらいの時間、本(教科書は除く)を読みますか。



11. 普段(月曜日から日曜日)、1日平均どれくらいの時間、学習以外(ゲームやSNSなど)にスマートフォンやタブレットを使っていますか。

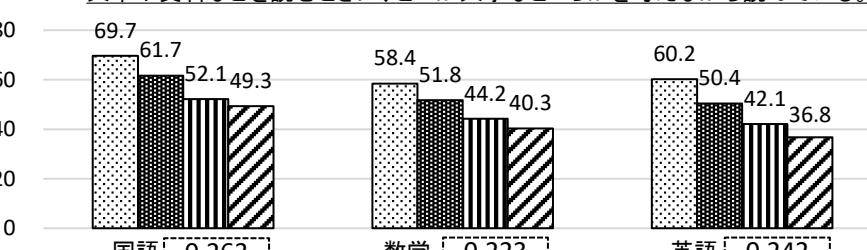


10 ■2時間以上
□1時間以上、2時間より少ない
□30分以上、1時間より少ない
□10分以上、30分より少ない
■4時間以上
□1時間以上、2時間より少ない
□3時間以上、4時間より少ない
□2時間以上、3時間より少ない
■5時間以上
□1時間以上、2時間より少ない
□30分以上、1時間より少ない
□2時間以上、3時間より少ない
■6時間以上
□スマートフォンやタブレットを持っていない
□その他・無回答

生徒アンケートと教科の平均点のクロス集計結果

※[]内の数値は相関係数を示しています

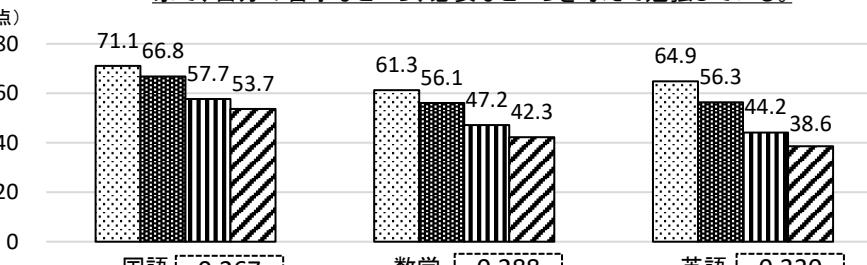
(点) 文章や資料などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる。



□当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

文章や資料などを読むときに、どこが大事なところかを考えながら読んでいる生徒の方が、教科の平均点が高い傾向が見られます。

(点) 家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している。



□当てはまる ■どちらかといえば、当てはまる ■どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

家で、自分の苦手なところ、必要なところを考えて勉強している生徒の方が、教科の平均点が高い傾向が見られます。

■今回お知らせする調査結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。